

### ⑤平成19年12月における救急外来患者と自殺未遂者数

平成19年12月における救急外来患者数ごとの自殺企図救命患者数は、救急外来患者数が2000人未満の場合は「0人」が多かった。また、救急外来患者数が2000人を越えた病院については「5～9人」が6箇所（50.0%）、「10人以上」が4箇所（33.3%）と自殺未遂者が多かった。

単位：箇所

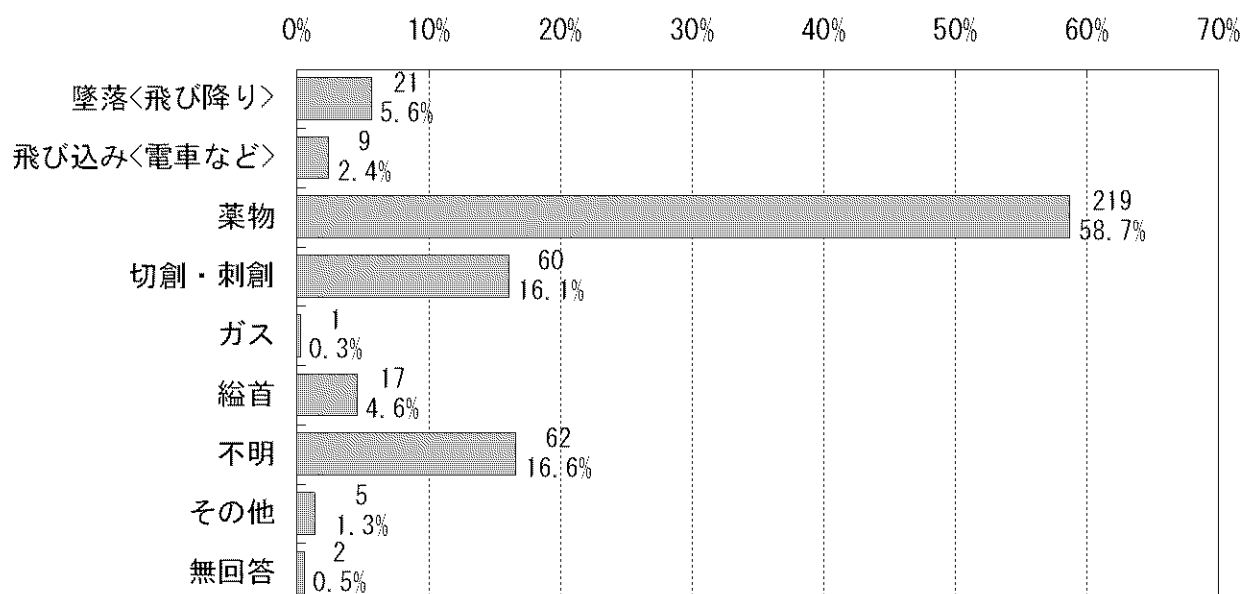
自殺未遂者 救急外来患者	0人	1人	2人	3人	4人	5人～9人	10人以上	合計
0人	20 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	20 100.0%
1人～99人	41 75.9%	2 3.7%	4 7.4%	3 5.6%	0 0.0%	2 3.7%	2 3.7%	54 100.0%
100人～199人	26 76.5%	5 14.7%	1 2.9%	0 0.0%	0 0.0%	2 5.9%	0 0.0%	34 100.0%
200人～299人	17 85.0%	1 5.0%	1 5.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 5.0%	0 0.0%	20 100.0%
300人～399人	7 58.3%	2 16.7%	2 16.7%	1 8.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	12 100.0%
400人～499人	4 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 100.0%
500人～999人	14 56.0%	6 24.0%	2 8.0%	0 0.0%	1 4.0%	1 4.0%	1 4.0%	25 100.0%
1000人～1999人	9 50.0%	4 22.2%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 11.1%	3 16.7%	18 100.0%
2000人～	2 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	6 50.0%	4 33.3%	12 100.0%
全体	140 70.4%	20 10.1%	10 5.0%	4 2.0%	1 0.5%	14 7.0%	10 5.0%	199 100.0%

### (4) 自殺未遂者について

#### 1) 自殺企図の方法

自殺企図の方法は、全体で見ると、「薬物」が219人（58.7%）で一番多く、ついで「切創・刺創」が60人（16.1%）であった。

(n=373) (人)

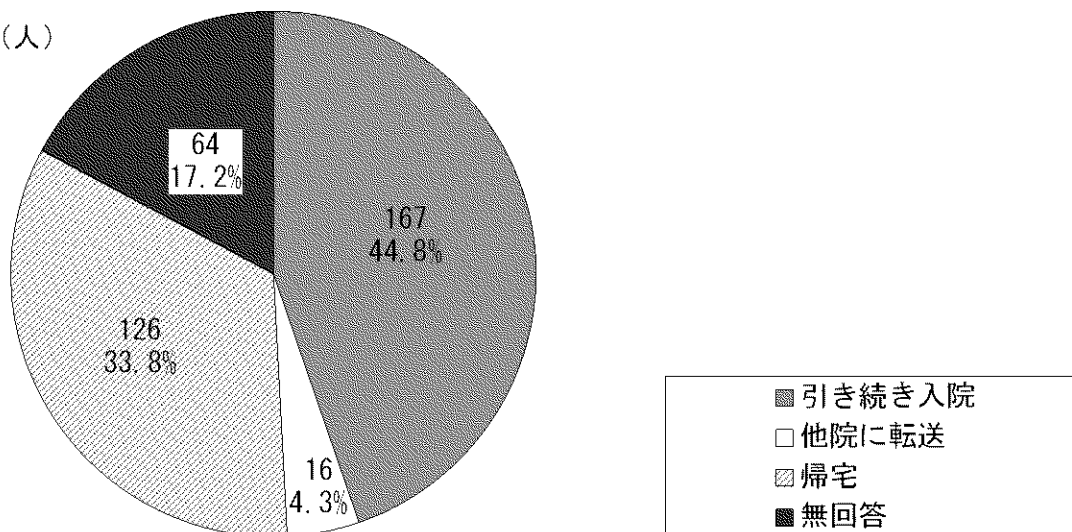


※複数回答

## 2) 入院等の状況

救命された患者の入院等の状況は、「引き続き入院」が167人（44.8%）で一番多く、ついで「帰宅」が126人（33.8%）であった。

(n=373) (人)

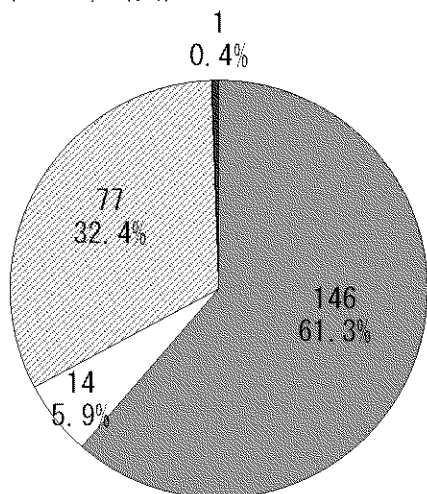


これらを、精神科標榜の有無で比較すると、精神科標榜医療機関は「引き続き入院」が146人（61.3%）で多く、精神科非標榜医療機関では「無回答」を除くと「帰宅」が49人（36.3%）で多く、「引き続き入院」は少なかった。

### ■精神科標榜の有無別の状況

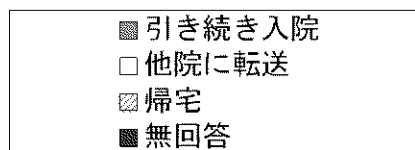
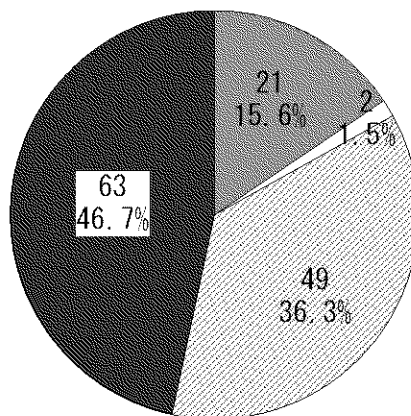
#### ●精神科標榜医療機関

(n=238) (人)



#### ●精神科非標榜医療機関

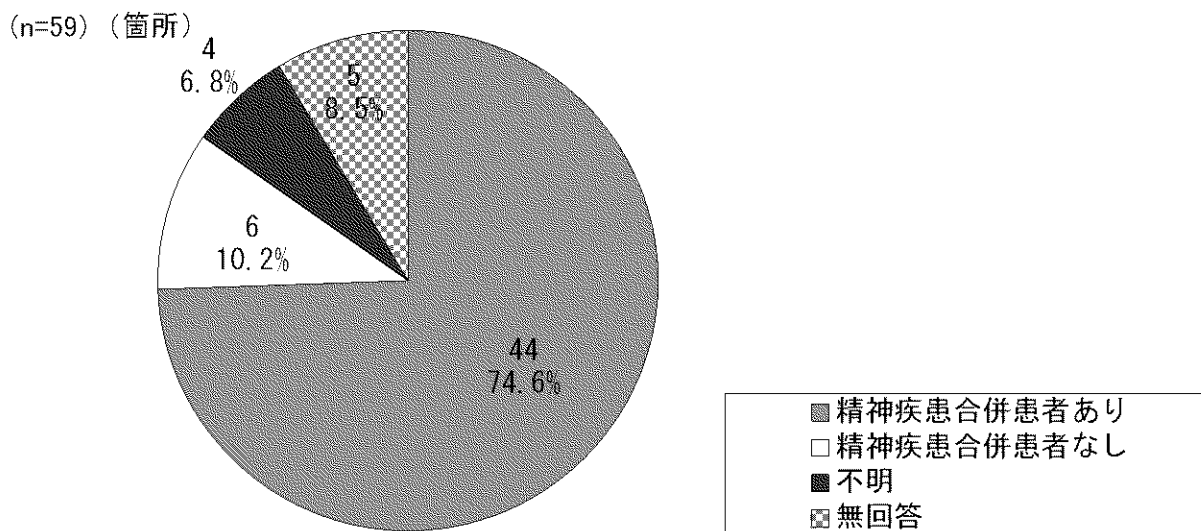
(n=135) (人)



### 3) 精神疾患の合併の状況

#### ①精神疾患を合併していた患者が搬送された病院

自殺未遂者への救急対応のあった病院のうち、自殺未遂者の中に精神疾患を合併していた患者があった病院は44箇所（74.6%）、なかった病院は6箇所（10.2%）であった。

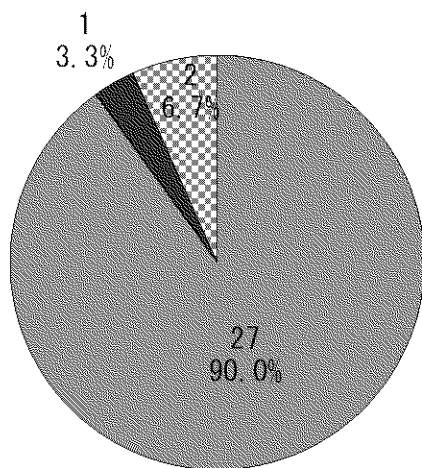


また、精神科標榜の有無別でみると、精神科標榜医療機関では「精神疾患合併患者あり」が27箇所（90.0%）と9割を占めていた。

#### ■精神科標榜の有無別の状況

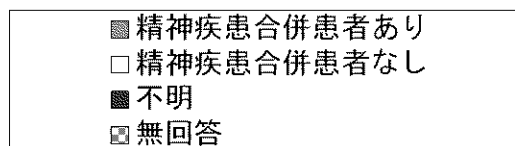
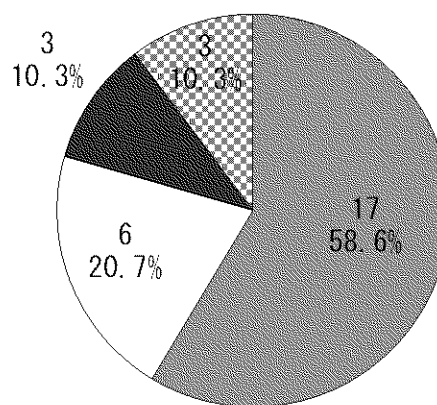
##### ●精神科標榜医療機関

(n=30) (箇所)



##### ●精神科非標榜医療機関

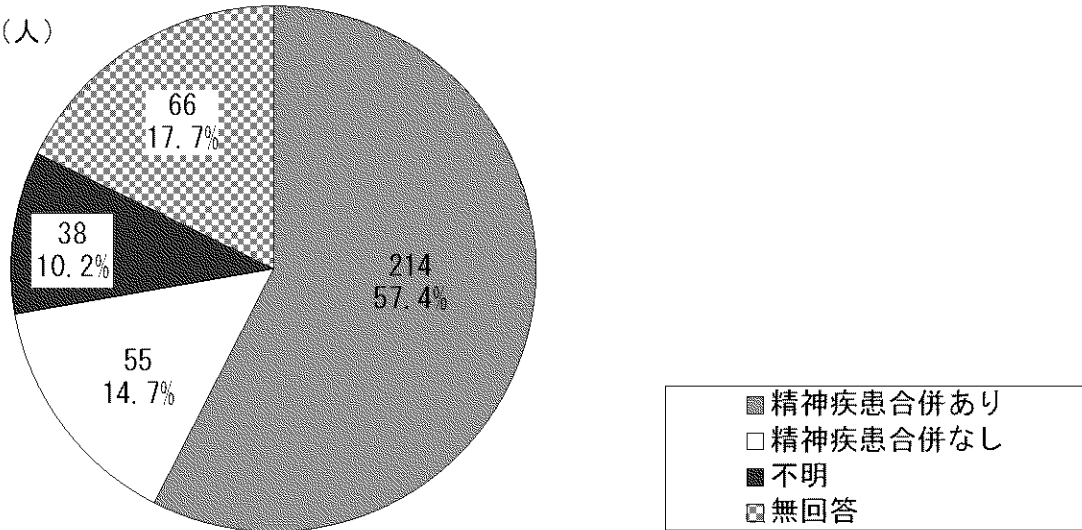
(n=29) (箇所)



## ②精神疾患を合併していた患者数

自殺未遂者のうち、精神疾患を合併していた患者は214人（57.4%）で約6割を占めた。

(n=373) (人)

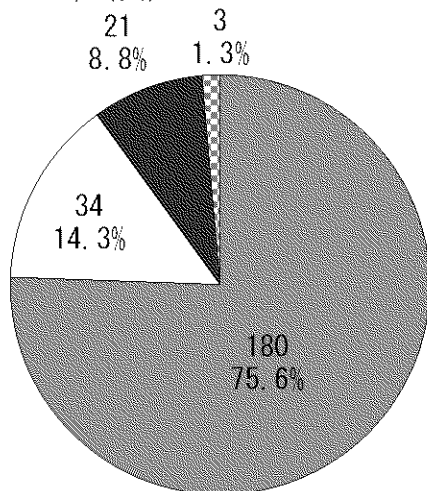


また、精神科標榜と比較すると、精神科標榜医療機関では自殺未遂者238人のうち、「精神疾患合併あり」が180人（75.6%）で4分の3を占めていた。一方、精神科非標榜医療機関では、「精神疾患合併あり」が34人（25.2%）で、「合併なし」の患者数21人（15.6%）を上回っていたものの、精神疾患合併の有無が「不明」又は「無回答」の患者が6割を占めた。

### ■精神科標榜の有無別の状況

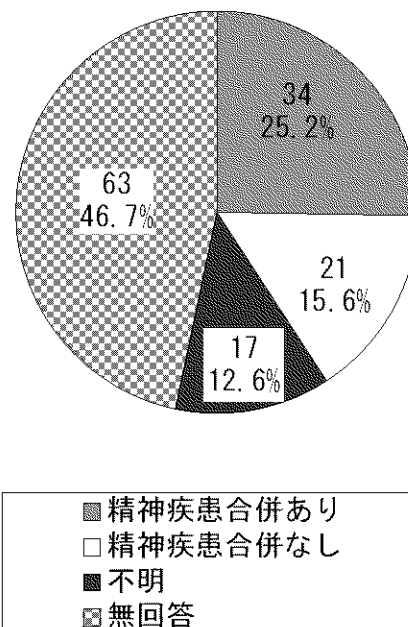
#### ●精神科標榜医療機関

(n=238) (人)



#### ●精神科非標榜医療機関

(n=135) (人)

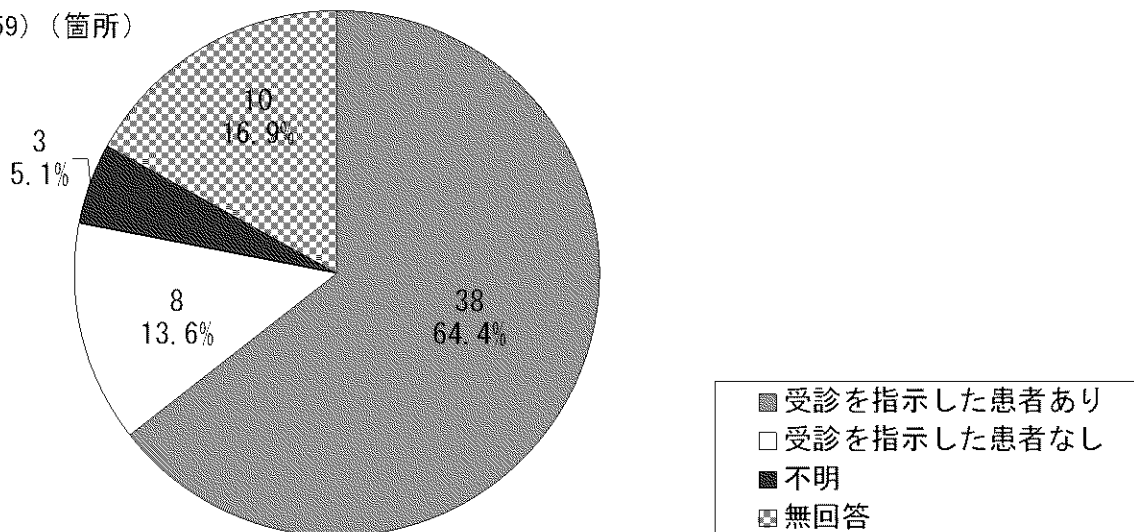


#### 4) 精神科への受診指示の状況

##### ①精神科への受診を指示した病院数

自殺未遂者への救急対応のあった病院のうち、自殺未遂者で精神科受診の指示をした患者がいた病院は38箇所（64.4%）、指示をした患者がいなかった病院は8箇所（13.6%）であった。

(n=59) (箇所)

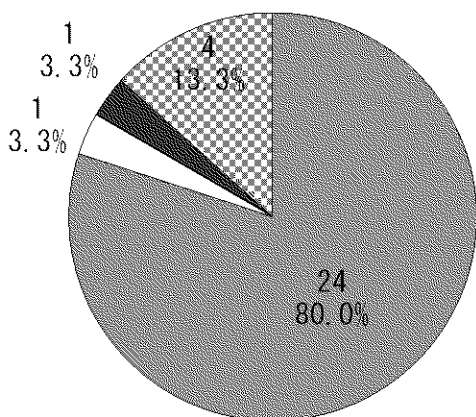


また、精神科標榜の有無で比較すると、どちらも受診を指示した患者がいた病院がそれぞれ24箇所（80.0%）、14箇所（48.3%）が多かった。

##### ■精神科標榜の有無別の状況

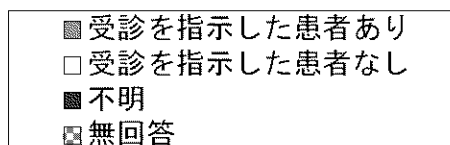
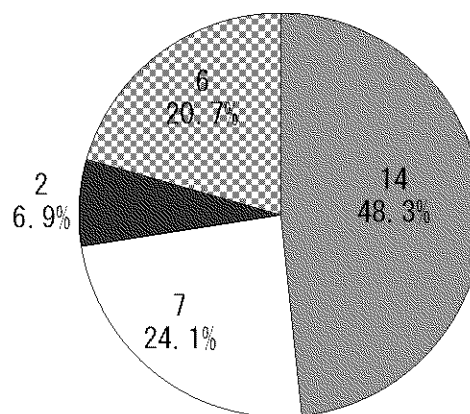
##### ●精神科標榜医療機関

(n=30) (箇所)



##### ●精神科非標榜医療機関

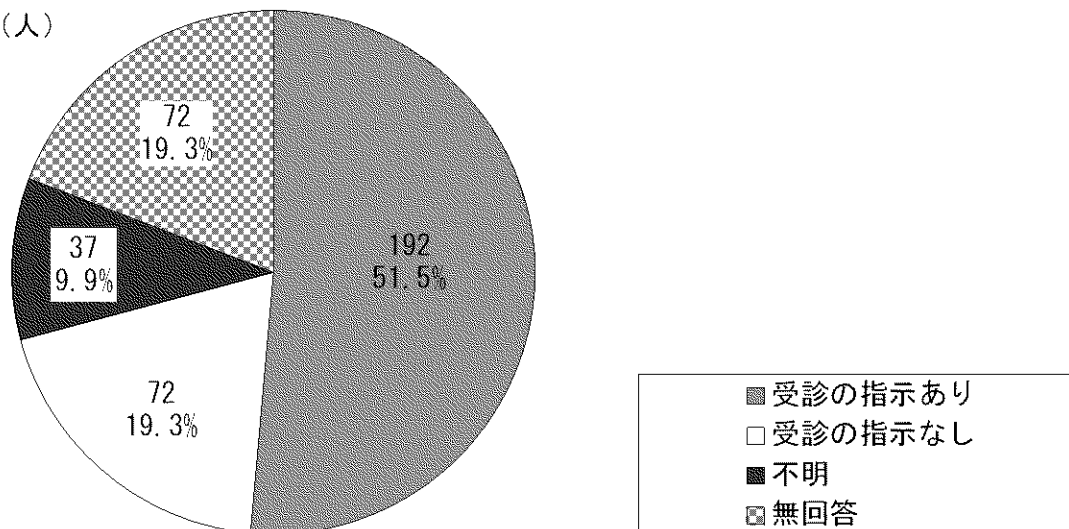
(n=29) (箇所)



## ②精神科への受診を指示された患者数

自殺未遂者のうち精神科への受診を指示された患者は192人（51.5%）で5割を占めた。

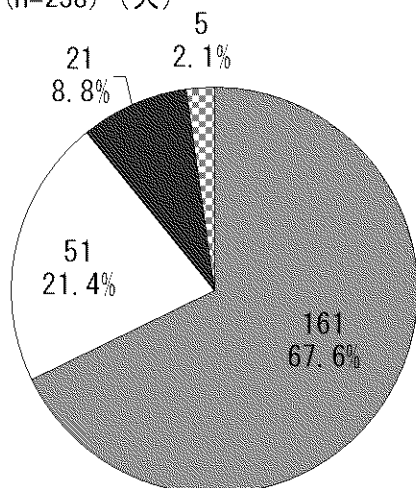
(n=373) (人)



また、精神科標榜の有無で比較すると、精神科標榜医療機関では、未遂者238人のうち、精神科受診の指示のあった患者が161人（67.6%）、指示のなかった患者が51人（21.4%）であった。一方、精神科非標榜医療機関では自殺未遂者135人のうち、精神科受診の指示のあった患者が31人（23.0%）で指示のなかった患者21人（15.6%）を上回っていたものの、「不明」または「無回答」の回答が6割を占めた。

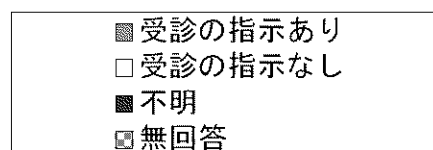
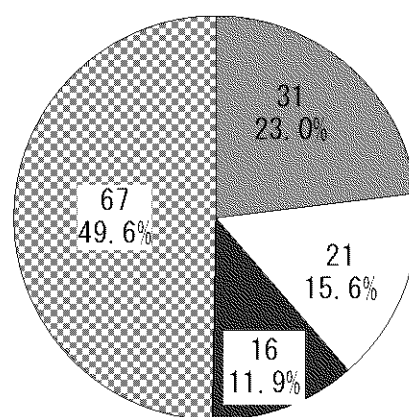
### ●精神科標榜医療機関

(n=238) (人)



### ●精神科非標榜医療機関

(n=135) (人)

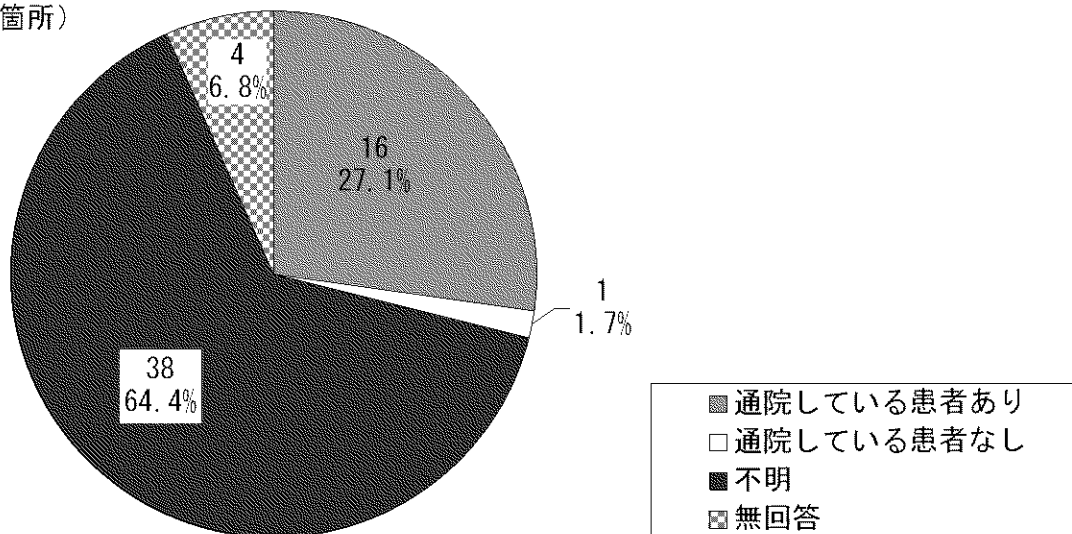


## 5) 精神科通院の状況

### ①精神科へ通院している患者がいる病院数

自殺未遂者への救急対応のあった病院のうち、自殺未遂者で引き続き精神科に通院している患者がいた病院は16箇所 (27.1%)、いなかった病院は1箇所 (1.7%)、「不明」又は「無回答」は42箇所 (71.2%)であった。

(n=59) (箇所)

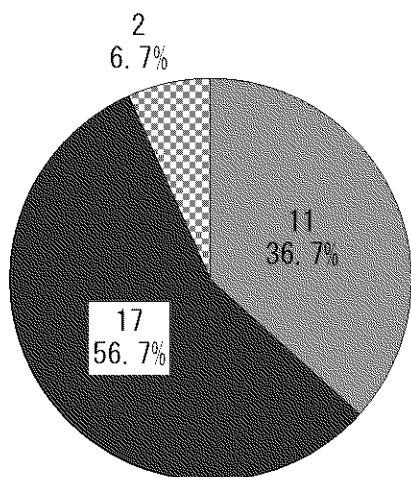


また、精神科標榜の有無で比較すると、通院している患者がいた病院は、精神科標榜医療機関では11箇所 (36.7%)、精神科非標榜医療機関では5箇所 (17.2%)であった。

### ■精神科標榜の有無別の状況

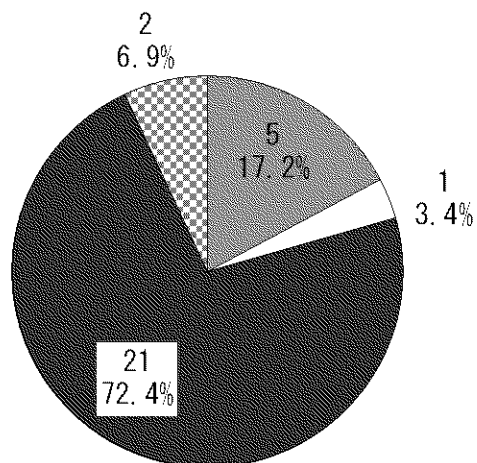
#### ●精神科標榜医療機関

(n=30) (箇所)



#### ●精神科非標榜医療機関

(n=29) (箇所)

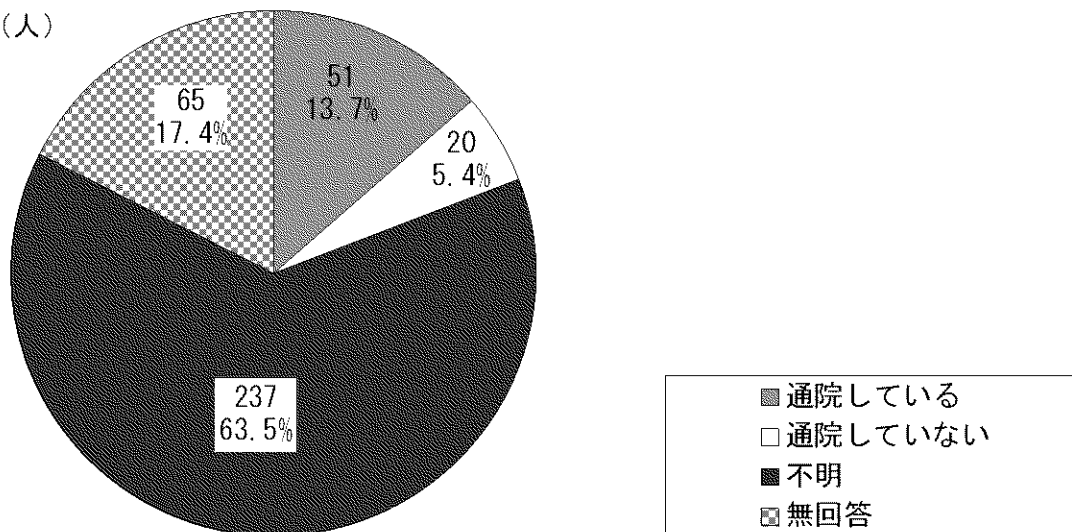


■ 通院している患者あり  
□ 通院している患者なし  
■ 不明  
▣ 無回答

## ②精神科へ通院している患者数

自殺未遂者のうち、引続き精神科に通院している患者は51人（13.7%）、通院していない患者は20人（5.4%）だったが、302人（81.0%）は通院の状況が「不明」又は「無回答」であった。

(n=373) (人)

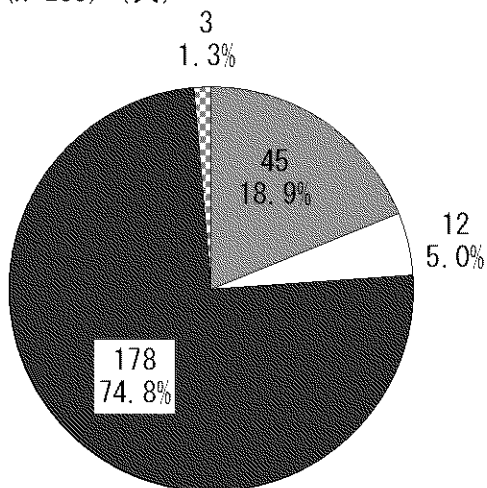


また、精神科標榜の有無で比較すると、どちらも「不明」又は「無回答」がそれぞれ181人（76.1%）、121人（89.6%）で多かった。

### ■精神科標榜の有無別の状況

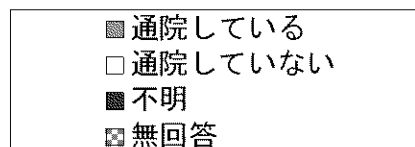
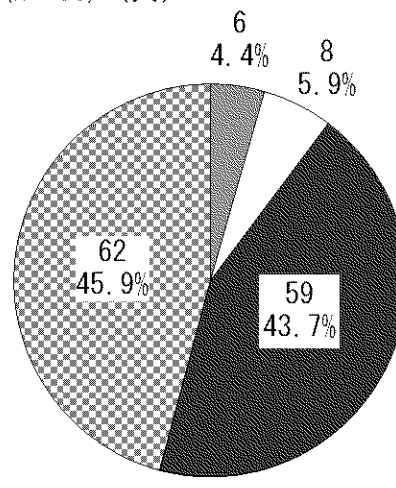
#### ●精神科標榜医療機関

(n=238) (人)



#### ●精神科非標榜医療機関

(n=135) (人)



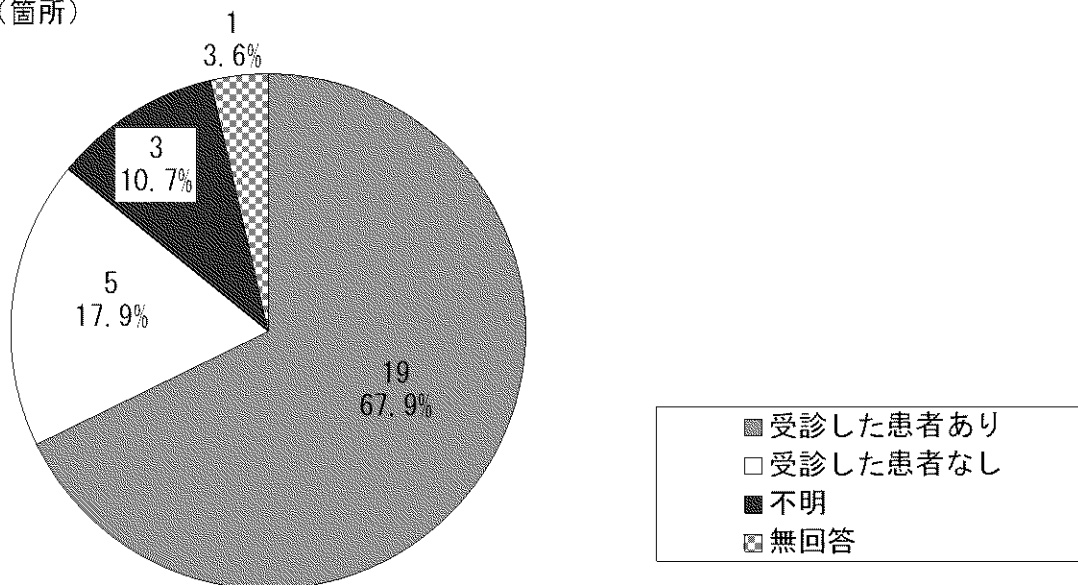


## 6) 入院中の精神科受診の状況

### ①入院中に精神科を受診した患者がいる病院数

自殺未遂者で、引き続き入院した患者がいた病院28箇所のうち、入院中に精神科を受診した患者がいた病院は19箇所（67.9%）であった。

(n=28) (箇所)

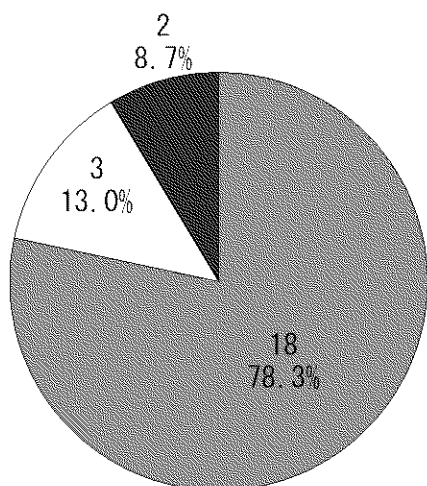


これを、精神科の有無別で比較すると、入院中に精神科を受診した患者がいた病院は、精神科標榜医療機関では18箇所（78.3%）であったのに対し、精神科非標榜医療機関では1箇所（20.0%）のみであった。

### ■精神科標榜の有無別の状況

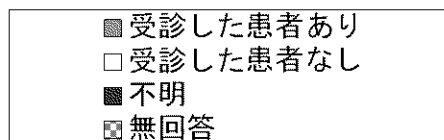
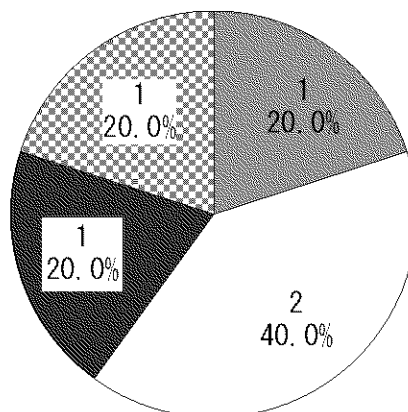
#### ●精神科標榜医療機関

(n=23) (箇所)



#### ●精神科非標榜医療機関

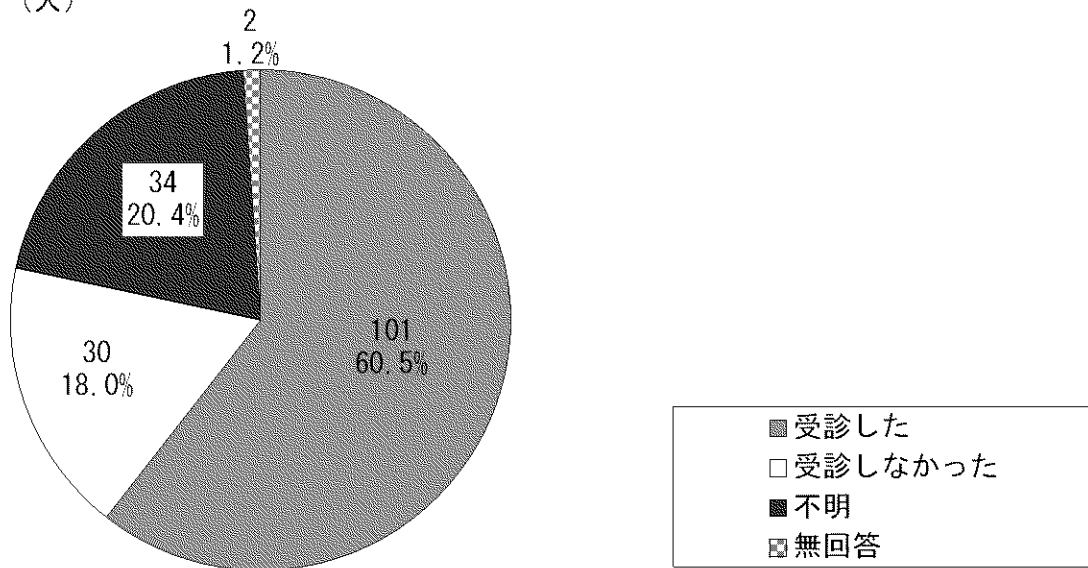
(n=5) (箇所)



②入院中に精神科を受診した患者数

自殺企図後に引き続き入院した患者167人のうち、入院中に精神科へ受診した患者は、101人（60.5%）で6割を占めた。

(n=167) (人)

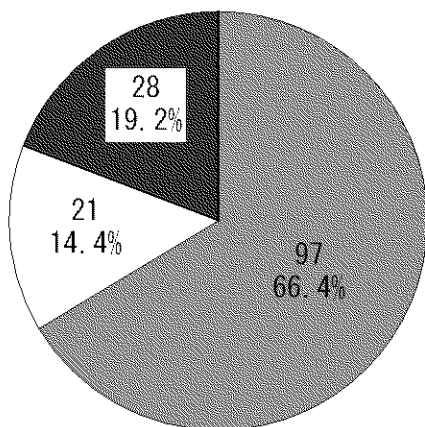


また、精神科標榜の有無で比較すると、精神科標榜医療機関では入院中に精神科を受診した患者が97人（66.4%）で多く、精神科非標榜医療機関では受診していない患者が9人（42.9%）が多かった。

■精神科標榜の有無別の状況

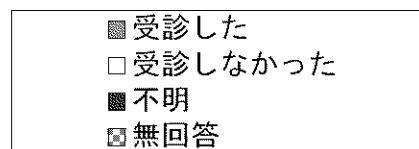
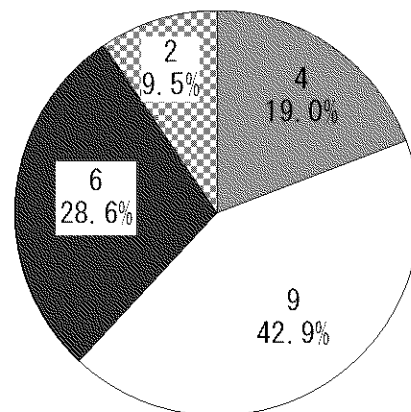
●精神科標榜医療機関

(n=146) (人)



●精神科非標榜医療機関

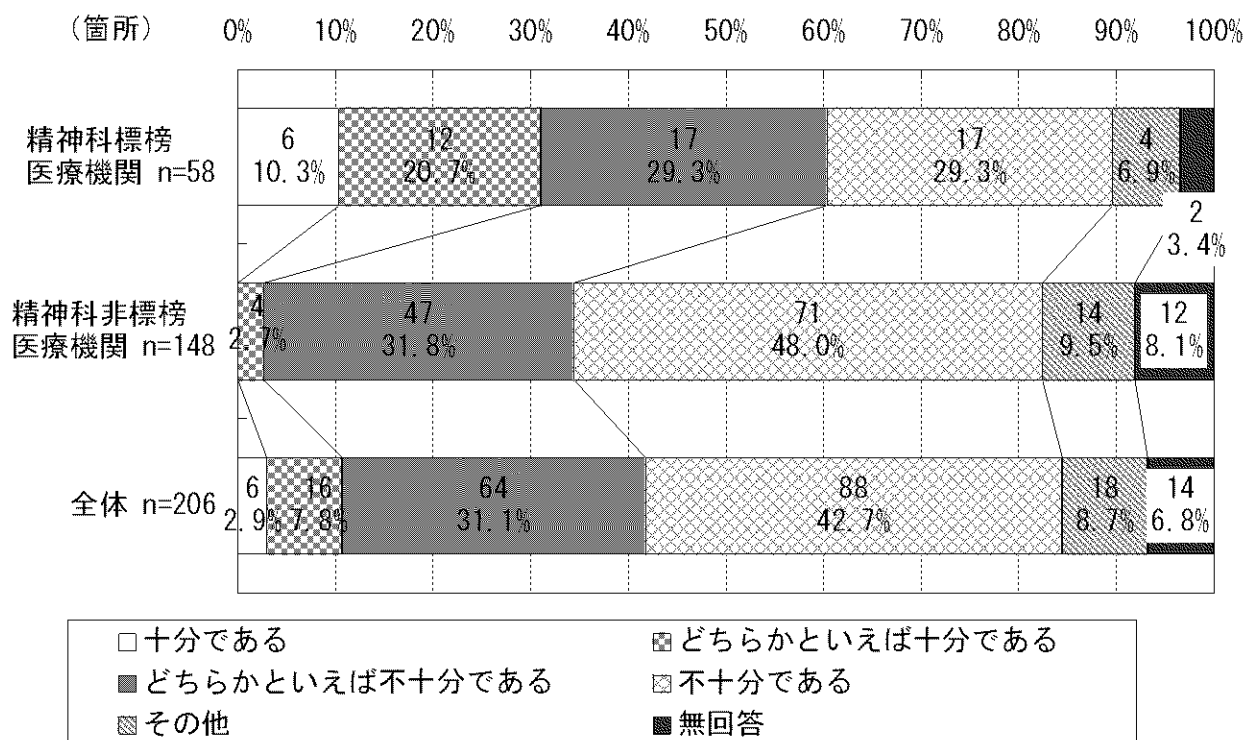
(n=21) (人)



## (5) 自殺企図患者への精神的ケア体制

### 1) 現状の精神的ケア体制について

現状の精神的ケア体制については全体で見ると、「不十分である」が88箇所(42.7%)で一番多く、ついで、「どちらかといえば不十分である」が64箇所(31.1%)で多かった。



#### ① 「十分である」「どちらかといえば十分である」と考える医療機関のケア体制

##### ■精神科標榜医療機関のケア体制

###### ●治療・入院時

「意識改善後に必ず精神科医の診療を受け、精神科医を中心として全職員で精神ケアを施行」、「必ず精神科にコンサルタントを行う体制あり」、「救命センターやERで自殺企図患者が生じた場合、身体加療後精神科にコンサルトがある」、「入院時は全員に精神科医師が診療。退院、転院時はかかりつけ精神科医に紹介」、「ICLT (ICUリエゾン療法) という、救急患者の精神科受診システムが確立」、「入院した患者は必ず退院前に精神科受診を実施。他院通院中の患者にも受診・通院を指示し、希望した場合は外来で診療を行う」等の意見があった。

###### ●退院・帰宅時

「自殺企図後、ICU、HCUに入院となった症例、全例にコンサルテーションを行い、精神科のリエゾンチームが継続的にフォローして、退院、転院の判断を行う」等の意見があった。

##### ■精神科非標榜医療機関のケア体制

「患者へのケア・プライバシーの保護に注意を払っている。かかりつけ病院があれば受診をすすめ、ない場合は精神科を紹介する」等の意見があった。

## ②不十分である医療機関の現状

### ■精神科標榜医療機関の現状

#### ●精神科医不足

「精神科医不足。精神科に受診させてもその時のみで通院しない。通院したとしても一時的」、「自殺企図患者の対応は内科医が緊急に行っており、精神科領域の対応について十分配置はできていないと思われる」、「精神科医一名で、外来診察で手いっぱいでは急患は診られない」、「精神科医の数（1名）と患者数が対応していない、とくに土、日、休日は精神科対応不能」、「精神科医師が週3日の非常勤医師（3名）であり、対応できない場合があり、他の医療機関へ受診、入院を依頼することがある」等の意見があった。

#### ●救急医療としての時間的制約

「迅速なベッドコントロールが必要となる救急の現場で、精神科コンサルトをかけたから精神科受診に至るまでの時間差があり、十分な精神的介入をしないまま退院とせざるを得ないケースが多い」等の意見があった。

### ■精神科非標榜医療機関の現状

#### ●精神科医不足

「精神科医師が不在のため、精神科医療機関との連絡が困難かつ不十分である」、「診療科に精神科がなく、医師もいない」、「精神科との連携が取れず、また搬送しようとしても受入を拒否される」、「整形外科単科病院のため、外傷等の治療は可能だが精神科医はいないので、精神的ケアについては専門的な治療が困難」等の意見があった。

#### ●医療体制

「自殺企図患者が精神科、心療内科を受診中の場合は主治医に相談するように話すが、それ以外の場合はそのまま帰宅させるケースがある」、「自殺企図患者に対応できる医療スタッフ及びケア体制ができていない」

#### ●その他

「精神科をすすめても、家族が精神科、心療内科等に受診しない」等の意見があった。

## ③その他の意見

「非常勤医師2名による週2日の外来診療のみでは十分なケアが不可能」、「精神科標榜がなく、専門的なケアが行えているとは言えない」等の意見があった。